

令和5年度第4回釜石・大槌地域保健医療推進会議
(釜石構想区域地域医療構想調整会議) 開催結果概要

1 日時

令和6年2月6日(火) 18時30分～19時20分

2 場所

釜石PIT 多目的集会室

3 出席者

- (1) 委員19名のうち出席17名(うちWEB出席2名)、欠席2名
- (2) 保健福祉部医療政策室2名、医療局2名(WEB出席)
- (3) 釜石保健所8名

4 傍聴者

なし

5 議事及び説明事項

(1) 岩手県保健医療計画(2024-2029)の素案について

医療政策室の佐藤主査から口頭で、パブリックコメント等の実施結果について、説明を行った。

・12月25日から1月末までパブリックコメント並びに市町村等に対する法定の意見徴収を実施。

・パブリックコメントでは100件程、法定の意見聴取では20件程の意見が提出

・今後、医療審議会医療計画部会において、パブリックコメント等を踏まえた中間案を審議

・3月中旬に開催予定の医療審議会最終案を審議し、計画を策定する予定

また、釜石保健所の山内主任主査から資料2により、パブリックコメント等において地域編(釜石保健医療圏)の素案に対し、計画の見直しに係る意見はなかったため、圏域の現況に係る数値のみを更新し、案としたい旨説明し、委員から了承を得た。

【発言要旨】

[釜石医師会 小泉会長]

様々な会でいろいろ説明があり、各々少しづつ理解が深まってきている。これからも住民に説明しながら進めていきたい。

[釜石歯科医師会 八重樫会長]

医療局にお聞きしたい。先日、県立病院の運営協議会参加し、その際、予算的に厳しいため、県立釜石病院の新設はないとの話があった。中は老朽化している。働いているドクターの環境を良くするための官舎のリノベーションは可能か。

[医療局 桜田企画予算担当課長]

県立釜石病院の方針及び施設の改修について、施設の維持や必要な改修については、随時実施することとしている。現在の施設はかなり老朽化しているため、今後の大規模改修又は建替の議論については、これから進めるところである。こういった形で県立釜石病院を維持していくか、運営していくかは、次期岩手県立病院等の経営計画での検討の中で具体的にしていきたいと考えている。

[国立釜石病院 土肥院長]

最近、釜石市の人口は3万人を割ったが、事業所や工場、病院などがあり、他の市町村から勤めに来ている人が多く、昼間人口は高いと思われる。そのあたりはどう考えているか。

[釜石医師会 小泉会長]

確かにそういう感じは受けます。SMCなどを見ても、宮古、大船渡、陸前高田からも勤めに来ており、昼の人口はかなり増えていると思われる。

[釜石市保健福祉部 鈴木部長]

交通の便は改善しており、SMCなどがあることから、昼間人口は増加していると思う。逆に釜石市外に通う方もいるため、それを評価することは難しいと考えている。

(2) 医療構想の実現に向けた取組状況等について

釜石保健所の山内主任主査から資料2-1により、「医療構想の実現に向けた取組状況等」及び資料2-2により「病床機能再編支援給付金」を、医療局が医療政策室に対し申請を行うこととしている旨を説明し、委員から了承を得た。

【発言要旨】

[県立釜石病院 坂下院長]

許可病床数が180床になった経緯を説明したいと思う。私が県立釜石病院に着任した当時は、病床数、稼働病床数ともに272床、病床として4つ稼働していた。しかし、人口減少のために患者さんは令和元年に1年で177人、病床利用率は65%、令和2年は139人で利用率51%と非常に低い数値となり、診療体制の縮小もあり、当時の公立病院改革プランで求める利用率70%を達成することが困難であると判断し、令和2年度中に病棟を3つに再編し、通常の稼働数を169床、そして空いた病床をコロナ専用病

床として運用を開始した。その後は1日の患者数は140人前後、利用率は実動病床ベースで計算すると85%前後で推移していた。昨年5月のコロナ感染症の5類移行後は、感染症の患者は一般病棟での入院対応としたため、コロナ専用病床を廃止して、なおかつ動線の確保、業務の効率化を行うため、各々60床の3つの病棟に再々編した。10月からの許可病床数も180床として申請し、許可されている。

以前、地域医療構想調整会議で、当院の将来像として180床程度とすることが協議されていた。人口減少が予想以上に早く進み、早期の対応が必要となったものである。事実上、ベットを削減したのではなく、この数年の稼働病床数と比べて、10床以上を増やして稼働できるようにしたもの。いきなり92床を減床したのではなく、あくまで許可病床数が92床減少し、稼働病床数はほぼ変わらず、やや増えたものとなっている。

[釜石医師会 小泉会長]

いろいろ変化がありましたが、稼働病床から考えると、以前よりは稼働率が良くなったとのこと。県立釜石病院は、人口減に合わせ、80%以上の病床利用率がキープできれば健全経営となるとの流れで進んでいる。

[国立釜石病院 土肥院長]

国立釜石病院について、180床が慢性期病床としているが、うち80床は重症心身者病棟で福祉と病院が一緒となったもので、障害者施設や家ではみれない方を受け入れている病棟である。80床は福祉施設として除外し、慢性期を100床にしていだければと思う。

[釜石医師会 小泉会長]

病院の内容とすると、そういう流れになっているとのこと。社会のニーズに対応しているものである。これが今後どのように解釈されて進んでいくか、変化する可能性があるが、単純に病床数と利用率だけで進める訳ではなく、内容も含め、トータルとして、まちとして人口も含めて、どのようにしていけばいいか、議論しながら進めていきたいと思う。

(3) 岩手県立病院の経営計画の改定の概要について

医療局の桜田企画予算担当課長から、資料3により説明した。

【発言要旨】

[釜石医師会 小泉会長]

県立病院は私立病院が少なかった時代に、県民の健康を守っていただくとの趣旨で作られた。これから先は、人口を含め、岩手県の将来像を見据えて考えていかなければならない。県民の皆さんの意見を踏まえて検討する必要がある。経営は厳しいが県民の皆

さんに理解してもらいながら進めていく必要があると感じている。

[県立釜石病院 坂下院長]

県立病院の役割も変わってきている。過去 10 年 20 年よりもここ 1, 2 年の変化が本当に慌ただしく、要望を受けることも多い。少なくとも昭和 40~50 年代の初め頃までのように、1つの医療圏で全ての治療を完結するのは今後非常に難しくなる。人も高価な器械も必要な状況となり、それぞれの病院で揃えることは難しくなっている。今後は県立病院同士の相互の協力関係が必要となってくる。県立釜石病院は地域に密着した身近な医療、一般的な診療は行っていくので心配しないでいただきたい。高度な医療は県立中央病院、岩手医科大学、県立大船渡病院、県立宮古病院の力を借りていかなければならないと思う。御理解をお願いしたい。

[国立釜石病院 土肥院長]

感染症や大災害の際は、働き方改革の対応はどうなるのか。

[医療局 桜田企画予算担当課長]

具体的なものはないが、緊急時については取扱いの例外が設けられると思われる。非常時には、しっかりとした医療を提供する対応をお願いすることとなる。

[釜石歯科医師会 八重樫会長]

医療圏について、大船渡への搬送が困難な場合は、宮城県の気仙沼市民病院に搬送するなど、県境を越えた対応は検討しているか。

[医療政策室 佐藤主査]

現在策定中の次期保健医療計画の中で県境の宮城県や青森県との連携について新しく盛り込んでいる。次期地域医療構想の策定に向けて、来年度以降、宮城県や青森県と議論していきたいとしている。